

## アイズスタイル 久米愛さん

人生の通過儀礼の本来の意味を伝えていきたい  
結婚式や七五三の「自宅で儀式」の提案も

# なでしこ力



久米愛さん

婚礼プロデューサー、儀式講師、イベント企画運営を行う「アイズスタイル」(天白区)の久米愛さん。結婚式、お宮参り、七五三、成人式、葬式…人生の通過儀礼が形骸化し、どんな意味を持つかを知らないまま行うことが増えてきた。「儀式の本来の意味を伝えながら、式までをプロデュースするのが仕事。自宅で儀式を行う提案もしています」

「儀式とは、単にお金をかければよいというものではなく、本来は、周りの大人がいかにかきちんと儀式(に込められた意味や願い)のことを伝えていくことが重要なのです」と久米さん。そのため結婚式や祝い事などを「自宅で儀式」という提案も行っている。「結婚式でも自宅に六畳間があれば開くことができるのです」。

例えば七五三なら、久米さんの仕事は子どもにも式の意味をかみくだいて伝えることから始まり、衣装やカメラマンの手配、式典ができる神社との折衝、各種提案(自宅での儀式やお祝いの食事会開催など)まで行う。

昔の入学式は、親子で親戚へのあいさつ回りをするところから始まった。子どもは儀式を通して自分が周囲に大切にされていることを知り、神様に守られていることを実感し、自己肯定感につなげていた。今は各儀式から大事なプロセスが省略されている分、七五三でも儀式の意味を伝えることに力を注ぐのである。

「アイズスタイル」の仕事の中心となる婚礼プロデューサーの仕事も同様である。日本の結婚式は、江戸時代以前から自宅で行うものだった。

大正天皇の結婚の儀をきっかけに神前結婚式が行われるようになり、ホテルなどでの結婚披露宴は、1964年の東京オリンピックを機に増えたホテル事業の一環になってからと歴史が浅い。その後、結婚披露宴は多様化し、結婚式の本来の意味が認識されにくくなってきた。

こうした現状の中で、久米さんの仕事は結婚式の一年前から始まる。カップルにはまず式典を挙げる意味…「結婚式は、これまでの感謝と子孫繁栄を願って行うもの。次の代に命をつないで今があり、新しい未来に伝えるもので、ご先祖様を最も身近に感じる儀式」と伝えてからスタート。「どこまでの規模で、衣装や食事で、どんな結婚式をしていくか」を、結婚プランナーとして両家の間に立って決めていく。

しかし結婚式は「人生の中で唯一、自分で決められる人生の通過儀礼」であるからこそ、両家の意見が対立することも多い。両家の考える「普通」は、大きく違うことが多いからだ。

「結婚は両家の文化のすり合わせ お互いの家の良いところを合わせて、新婚夫婦の新しい家の文化を作ることなのです」と久米さん。結